

いまをいきる 当事者探究

日本発達系作業療法学会第12回学術大会

会 期：2024年3月9日(土)/3月10日(日)

事前配信：2024年2月1日(土)/3月10日(日)

事後配信：2024年3月18日(月)/4月14日(日)

大会長：黒澤 淳二 (ハートフリーやすらぎ)

開催形態：現地開催/オンライン

会 場：森ノ宮医療大学

大阪開催



日本発達系作業療法学会 第12回学術大会

目次

開催要綱	1
大会長挨拶	2
会場アクセス	3
会場案内	4
日程表	5
プログラム	6
指定演題	9
指定演題でのディスカッション方法について	14
シンポジウム	17
一般演題抄録	21
実行委員	37

開催要綱

1. 主 催

日本発達系作業療法学会

2. 名 称

日本発達系作業療法学会 第12回学術大会

3. 会 期

2023年3月9日(土)／3月10日(日) 現地開催+オンデマンド配信
事前配信(一般演題のみ)：2023年2月1日(木)～3月10日(日)
事後配信(全プログラム)：2023年3月18日(月)～4月14日(日)

4. 会 場

森ノ宮医療大学

5. 大 会 長

黒澤 淳二(ハートフリーやすらぎ)

6. 実行委員長

米持 喬(大阪発達総合療育センター)

7. 事 務 局

日本発達系作業療法学会 第12回学術大会事務局
事務局メールアドレス：hattatukei.3910@gmail.com

8. 後 援

一般社団法人 日本作業療法士協会
一般社団法人 大阪府作業療法士会

大会長挨拶

いまをいきる 当時者探究

日本発達系作業療法学会 第12回学術大会

大会長 黒澤 淳二

(ハートフリーやすらぎ)



この度、大会長に就任いたしました黒澤淳二と申します。重度障害のある「当時者」作業療法士です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

1月1日に発生した令和6年能登半島地震に被災された皆様と関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。映像でしか知り得ませんが、此度も想定外で想像だにしない地震発生の機序と爪痕。極寒のなか懸命に取り組みおられる人々の姿ときずなに涙が溢れます。何らかのかたちでお役に立ちたいと思います。

今大会のテーマは「いまをいきる 当時者探究」です。私たち作業療法士は、出会った子どもや人たちが「何処から来て、何処へ行くのか」という発達を想像しながら、共に当たるその時・その刹那(=いま)を創造しています。日々の支援やセラピイの「いま」を探究したい…そんな思いを込めて「当時者」と称しております。

開催にあたっては、コロナ禍で失われた対面ライブでのディスカッションを実現したい！手に入れたオンラインの利点も活かしたい！米持実行委員長を中心に次代を担うメンバーと実行委員会を組織して「いまをいきる」新しいカタチの学術大会を企画いたしました。

核となる一般演題は、事前配信で練られた質疑応答をライブで行います。会場でのさらなる深掘りを大いに期待しております。そして、3つの指定演題から特別講演、オーラスのシンポジウムへとつなげることで、皆様と探究した「いま」を連綿と紡ぎ出し、未来を見出していきたいと考えております。

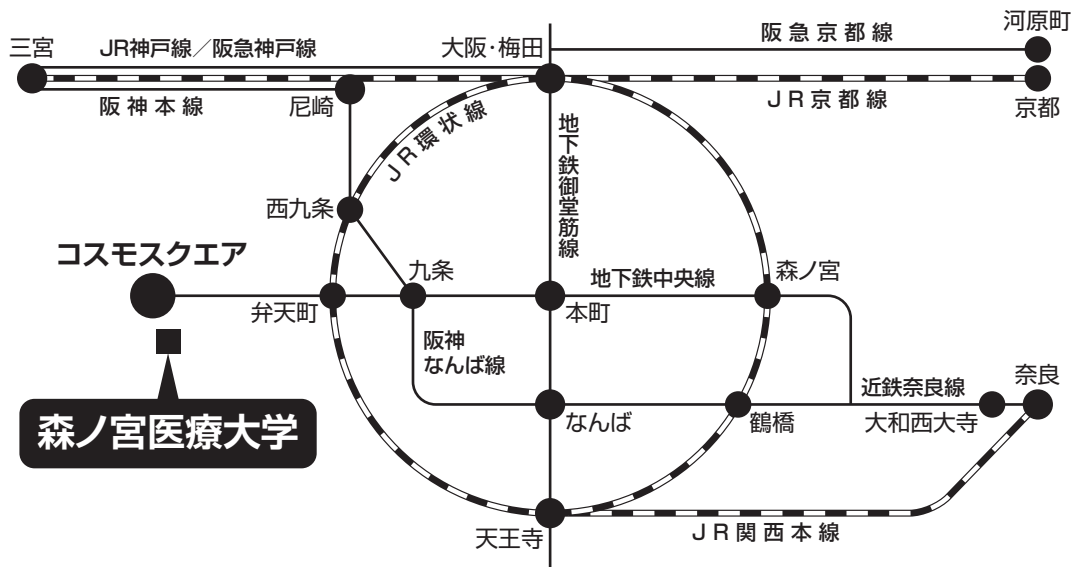
会場での二日間は、個人情報と熱いディスカッションを保護するためにライブ配信は行わず、概要を事後配信いたします。また、企業様による展示や図書の販売など、会場ならではの体感・交流も楽しんでいただけるよう工夫を凝らしております。

事前配信・会場対面ライブ・事後配信を通して、皆様の日々の支援やセラピイの「いま」への気づきや未来への希望に少しでもお役に立てればと願っております。

最後になりましたが、快く会場をご提供くださりました森ノ宮医療大学と関係者の皆様、ハイブリッド開催の指南から助けてくださったセカンド様、その他、多くの方々によるお力添えのおかげで「いま」を迎えようとしていることに、心から感謝申し上げます。

2024年1月17日

会場アクセス



- 「神戸(三宮)」「京都」「奈良」各方面から …… 約60分
- 大阪市内の主要ターミナル駅
「大阪(梅田)」「なんば」「天王寺」から …… 30分以内

地下鉄中央線「コスモスクエア」駅
2番出口から
…………… 徒歩約1分(南へ90m)

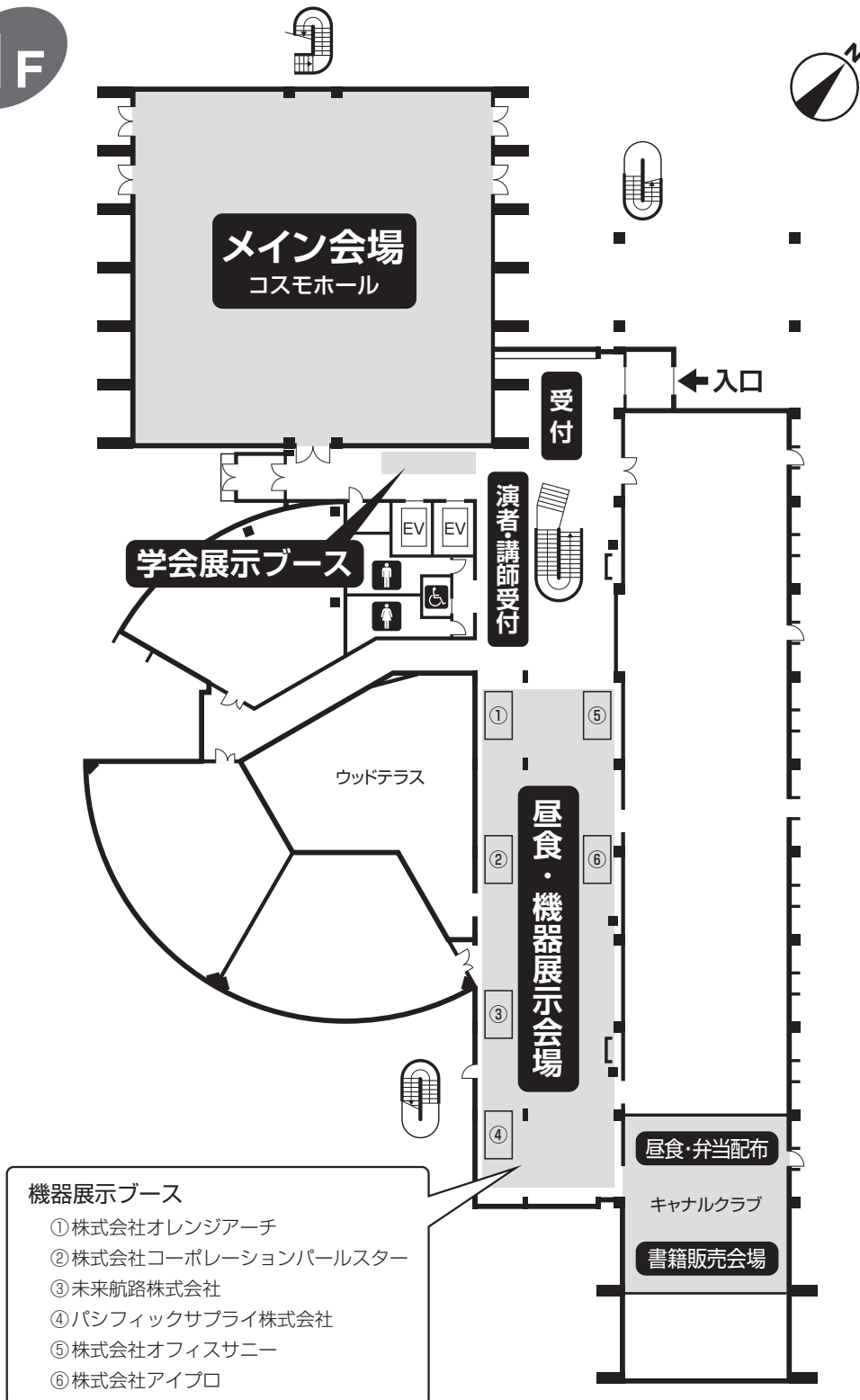


※お車でのご越しの場合：大学に専用駐車場はありません。付近にコインパーキングがございます。

会場案内

東棟 イーストポート

1F



日 程 表

1日目 2024年3月9日(土)

2日目 2024年3月10日(日)

1日目		2日目	
メイン会場	展示会場	メイン会場	展示会場
コスモホール	廊下	コスモホール	廊下
8:30		8:30 ~ 受付	8:30 ~ 15:00 機 器 展 示
9:00		9:00 ~ 10:10 一般演題 ② 8 演題 座長：森田 浩美、伊藤 祐子	
10:00		10:20 ~ 11:50 指定演題 いまをいきる事例検討会 学童期 [学童期の“今”に 作業療法士として目標にすること] 発表：田中 啓規 司会：加藤 寿宏 コメンテーター・ミニレクチャー：岩崎 清隆	
11:00		12:00 ~ 12:50 総 会	
11:30 ~ 受付		13:00 ~ 14:30 シンポジウム 《いまをいきる 当時者探究》 大会長ミニレクチャー 発表：黒澤 淳二 シンポジウム シンポジスト：黒澤 淳二、小松 則登、 岩崎 清隆、伊藤 直子 司会：岸本 光夫、松本 茂樹	
12:00 ~ 12:20 開会式	11:30 ~ 17:30	14:50 ~ 15:00 閉会式	
12:30 ~ 13:30 一般演題 ① 7 演題 座長：辻 善城、石附 智奈美	機 器 展 示		
13:40 ~ 15:10 指定演題 いまをいきる事例検討会 成人期 [成人期を支える作業療法士として 「その人らしさ」について考える] 発表：中村 幸子 司会：岸本 光夫 コメンテーター・ミニレクチャー：伊藤 直子			
15:30 ~ 17:00 指定演題 いまをいきる事例検討会 乳幼児期 [自信を持って一年生になる！！ための OT の役割とは] 発表：中川 瑛三 司会：鴨下 賢一 コメンテーター・ミニレクチャー：小松 則登			
17:00			

プログラム

指定演題 [いまをいきる事例検討会 乳幼児期]

2024年3月9日(土) 15:30～17:00

司会：鴨下 賢一(株式会社児童発達支援協会 リハビリ発達支援ルームかもん)
コメンテーター・ミニレクチャー：小松 則登(愛知県医療療育総合センター中央病院)

自信を持って一年生になる！！ためのOTの役割とは

中川 瑛三 児童発達支援：放課後等デイサービスえんりっち

指定演題 [いまをいきる事例検討会 学童期]

2024年3月10日(日) 10:20～11:50

司会：加藤 寿宏(関西医科大学 リハビリテーション学部 作業療法学科)
コメンテーター・ミニレクチャー：岩崎 清隆(哲学塾 ぴねうま群馬)

学童期の“今”に作業療法士として目標にすること

田中 啓規 NPO法人 そいる

指定演題 [いまをいきる事例検討会 成人期]

2024年3月9日(土) 13:40～15:10

司会：岸本 光夫(重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎)
コメンテーター・ミニレクチャー：伊藤 直子(森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部)

成人期を支える作業療法士として「その人らしさ」について考える

中村 幸子 社会福祉法人芳友 神戸医療福祉センターひだまり

シンポジウム [いまをいきる 当時者探究]

2024年3月10日(日) 13:00～14:30

大会長ミニレクチャー

いまをいきる 当時者探究

黒澤 淳二 ハートフリーやすらぎ

シンポジウム

司会：岸本 光夫 重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎
松本 茂樹 堺市立重症心身障害者(児)支援センター ベルデさかい

シンポジスト：黒澤 淳二 ハートフリーやすらぎ
小松 則登 愛知県医療療育総合センター中央病院
岩崎 清隆 哲学塾 ぴねうま群馬
伊藤 直子 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科

一般演題 プログラム

一般演題①

2024年3月9日(土) 12:30～13:30

座長：辻 善城(大阪赤十字病院附属大手前整肢学園)
石附 智奈美(広島大学大学院 医系科学研究科)

- 1 誰もが楽しめる海
三保でユニバーサルビーチをやるうを開催して 実践報告
○西ヶ谷 和昭
(株)児童発達支援協会 リハビリ発達支援ルーム かもん
- 2 東京都児童相談センター治療指導課の感覚統合グループにおける多職種連携
～スタッフへのアンケート調査より～
○高井良 静香, 三浦 香織, 遠藤 佳蓮, 浦野 弘美, 小平 かやの
東京都児童相談センター 治療指導課
- 3 保育園に勤務する保育士が作業療法に求める支援とは？
○鎌田 良子¹⁾, 木村 仁美¹⁾, 千田 直人²⁾, 小玉 正博¹⁾, 野島 洋子¹⁾
1) 特定非営利活動法人 市川ことばの会 多機能型事業所 ぶれも・しすい,
2) 植草学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科
- 4 児童発達支援センターでのサーキット活動への作業療法士の介入の実践報告
○久保田 絢女
東遠学園組合 こども発達センターめばえ
- 5 早産児ビリルビン脳症によるアテトーゼ型脳性麻痺当事者の会におけるニーズの探索
○松田 大輔, 山本 柚葉
合同会社くうねるあそぶワークスこども発達支援ルーム PLANET
- 6 早期の集団療育・個別作業療法を行い
対人認知やセルフコントロールの向上が見られた自閉スペクトラム症男児
○小林 裕太郎
社会福祉法人こころみの会
- 7 生後7か月から経口摂取に取り組み続けている一症例
○松田 祥子, 小松 則登
愛知県医療療育総合センター 中央病院

- 8** 訪問作業療法における絵画の取り入れ方に関する一考察
○金丸 泰子¹⁾, 貫井 幸恵²⁾, 小俣 彩²⁾, 弓野 大²⁾
1) ゆみのハートクリニック, 2) 医療法人社団ゆみの
- 9** 家庭映像のフィードバックを用いた家族との協働により食具操作の向上に至った事例
○浅田 優衣
公益財団法人 ひょうご子どもと家庭福祉財団
- 10** 学童期自閉スペクトラム症児の睡眠の問題と感覚特性は関連しているのか
○近藤 優樹¹⁾, 土屋 謙仕²⁾, 松下 雅子²⁾, 外里 富佐江²⁾
1) 医療法人公生会 竹重病院, 2) 長野保健医療大学 保健科学部
- 11** 児童発達支援事業所での自閉スペクトラム症児に対する JASPER を基盤としたコミュニケーション指導
○花木 陽一¹⁾, 福澤 友輝¹⁾, 津路 裕久²⁾
1) 児童発達支援サービス ファミリアキッズ, 2) 株式会社 S & S
- 12** 急性脳症発症後の高次脳機能障害による行動面の問題に対するアプローチについて
○岩島 和香奈¹⁾, 吉橋 学²⁾, 村田 知之³⁾
1) 神奈川県総合リハビリテーションセンター 神奈川リハビリテーション病院 作業療法科, 2) 同 小児科,
3) 同 リハビリテーション工学研究室
- 13** 主体性を持つことで前向きに更衣に取り組めた事例
○辻 奈穂¹⁾, 秋山 友紀子¹⁾, 伊井 玄¹⁾
静岡済生会総合病院 静岡済生会療育センター令和
- 14** 「手を使って遊びたい！」
上肢活動の困難性が高い痙直型アテトーゼ女兒に対する作業療法支援
○山根 良子
広島市西部こども療育センター
- 15** 自食が困難な自閉スペクトラム症児に対する粗大運動を用いた間接的なアプローチ
○水科 順子¹⁾, 小松 則登²⁾
1) 東部地域療育センターぽけっと, 2) 愛知県医療療育総合センター中央病院リハビリテーション科

指定演題

[いまをいきる事例検討会]

乳幼児期



【司会】

鴨下 賢一

株式会社児童発達支援協会
リハビリ発達支援ルームかもん 代表取締役
発達が気になる子への支援を考える会 まるえふ 代表
日本発達系作業療法学会 副会長



【コメンテーター・ミニレクチャー】

小松 則登

愛知県医療療育総合センター中央病院
発達OTネットワーク@ASL 代表
日本発達系作業療法学会 理事
日本感覚統合学会 常任理事

学童期



【司会】

加藤 寿宏

関西医科大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授
日本発達系作業療法学会 会長
日本感覚統合学会学 副会長



【コメンテーター・ミニレクチャー】

岩崎 清隆

哲学塾 ふねうま群馬 代表
北関東発達・遊び研究所 所長

成人期



【司会】

岸本 光夫

重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎
リハビリテーション部 部長



【コメンテーター・ミニレクチャー】

伊藤 直子

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科 教授

乳幼児期



自信を持って一年生になる！！ためのOTの役割とは

中川 瑛三

児童発達支援・放課後等デイサービス えんりっち

【略歴】

2013年

京都大学 医学部 保健学科 作業療法
学専攻 卒業
医療法人 家森クリニック 入職

2021年

EnRich 合同会社 設立

2022年

医療法人家森クリニック 退職
児童発達支援・放課後等デイサービス
えんりっち 開所

キーワード：就学準備

子どもが初めて集団生活を経験する幼児期。それまで家庭生活が中心の乳児期から小さな社会にでて身の回りのことを自分で行い、様々なルールに従い、友達や先生など家族以外の人との交流へと広がっていく。また、安心や信頼の基礎となる感情の形成や社会的な絆の構築、行動の基礎となる言語・運動発達、自信の基礎となる自己の構築など「ヒトとしての育ち」「将来の可能性」という点では大切な時期である。

本事例は地域小学校への就学を控えた年長男児。新版 K 式発達検査(5歳2か月時)では、姿勢・運動(60) 認知・適応(82) 言語・社会(77) 全領域(77)であった。検査結果より、集団生活での成長が見られるが手先の難しさ等のフォローのため作業療法士がいる療育事業所を勧められた。保護者からのニーズは、「手先の不器用さ」「最後まで話を聞く前に行動してしまうため全体での一斉指示の理解が難しいこと」「通常級への就学を希望しているが、加配が減ったことで怒られることが増え、夜泣きがでてきたこと」が挙げられた。作業療法評価より、体性感覚の処理の難しさにより平衡機能、巧緻運動が関係する課題において稚拙さがみられること、視覚的刺激により注意が転導し、聴覚刺激への選択的注意が不十分なこと、新奇的な状況で動けなくなることで、または回避する傾向がみられた。

周りの子ども達と同様に問題なく集団生活を送って欲しいという保護者の願いに寄り添い、自信をもって就学できるようニーズに対して手指機能の発達、遂行能力の向上に向けて支援を進めている。しかし、遂行能力の質の変化を感じている一方で、生活上の問題点を解決するために機能面に焦点を当てた支援になっているのではないかと感じている。目の前のニーズに対しての問題解決だけではなく、乳幼児期から学童期への生活の質の変化を見据えながら、子どもと家族の自己実現まで含めた作業療法の展開を考えていきたい。

事例を通じて、今一度、乳幼児期の作業療法の在り方について、皆さんと事例探求を考えています。なお、本発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業はありません。

一般演題

1 誰もが楽しめる海 三保でユニバーサルビーチをやるうを開催して 実践報告

○西ケ谷 和昭

(株)児童発達支援協会 リハビリ発達支援ルーム かもん

キーワード：ユニバーサルビーチ，モビチェア，ヨット

【背景】三保松原は2013年に世界文化遺産「富士山」の構成資産として登録された。その内浜は半島が駿河湾からの波・うねりを防いでくれ、時に湖のようである。私は他海岸で数回ユニバーサルビーチのサポートに入ったことがあったが海水浴のみならず、遊びの種類を増やすことで参加者の経験値が増えると考えた。発表者はNPO清水港ヨット協会の会員であり三保で様々な遊びができるのではないかと思い立ったのが原点である。

【目的】車いす利用・発達障害・医療的ケア児は余暇での外出が困難な場合が多く、特に海での遊びになると多くの課題があり、家族のみでは困難である。サポートを行えば多様性のある人たちの遊びを支援できると考え行った。

【対象】発達障害・医療的ケア児・全盲高齢者など障害当事者12名とその家族20名、計32名

【方法】まずスタッフ集めを行った。OTを核として、知り合いの看護師・医師・特別支援教諭など医療や教育関係者14名。NPO清水港ヨット協会から9名。学生ボランティア4名。ユニバーサルツーリズムセンターより4名。その他友人5名。参加者集めはチラシを作り、ごく近しい人に配布。口コミにてすぐ定員に達した。浜地と海域使用に関して清水港管理局と清水海上保安部へ許可申請を行った。ユニバーサルビーチを全国で開催しているNPO湘南バリアフリーセンターへモビマットの設置をお願いした。なお(公社)静岡県作業療法士会の行うチャレンジ事業の申請を行い許可された。

【結果】好天・順風に恵まれ穏やかな気候の下、開催出来た。モビチェアはもとより用意したアクティビティはどれも楽しまれていた。カタマランヨットはオブジェになるかもしれないと思っていたが風の具合がよく思い切って乗せることとした。座位不良の参加者はサポーターが後方より支え姿勢の安定に努めた。風速2～3Mであったため、タック(方向を切り替える)時は移動しないでヨット上で過ごすことができた。「息子がこういう事が好きだったとは今日まで知らなかった、怖いと言いながら2回も乗船して成長を感じることができた」という家族が印象的であった。今回は「海を楽しもう」という純粋な遊びとして実施したこともありリハビリテーションとしての効果や評価は行なわなかったが、発表当日、参加者からの手記を紹介する事とする。また、新聞3社の取材を受け活動を啓蒙できた。

【考察】人・モノ・環境を適切に整えることで当事者や家族がここまで楽しめた。当事者のみならず、スタッフも楽しんでた。作業療法士が主催しコーディネートすることで発達系・精神系・身障系と幅広く支援できるメリットがある。今回のスタッフ構成が仕事上のつながりだけでなく文字通り多職種連携であった。国体選手を含むヨットの操船者、ユニバーサルツアーガイドや学生が参加し、それらを作業療法士がハブとなり、つなぐことで実現したイベントであった。

実行委員

- 大会長 黒澤淳二(ハートフリーやすらぎ)
- 実行委員長 米持喬(社会福祉法人愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター)
- 事務局長 松島佳苗(関西医科大学 リハビリテーション学部 作業療法学科)
- 実行委員 井上智博(枚方総合発達医療センター), 井上舞(ひょうご子どもと家庭福祉財団), 奥田祥司(宝塚医療大学 和歌山保健医療学部), 金森幸(森ノ宮医療大学), 木村基(四天王寺和らぎ苑), 作本咲菜(四條畷市立児童発達支援センター), 杉谷武人(愛徳医療福祉センター), 高山拓人(ひょうご子どもと家庭福祉財団), 田中尚樹(宝塚市立子ども発達支援センター), 長谷川雄大(西宮市立こども未来センター), 日高渚(大阪発達総合療育センター), 山本祥央(南紀医療福祉センター)
- 発起人 上田卓司(フリー), 岸良至(一般社団法人 わ・Wa・わ), 杉村孝彰(KIDSクラブ たわら), 辻善城(大阪赤十字病院附属大手前整肢学園), 松本茂樹(堺市立重症心身障害者(児)支援センター ベルデさかい), 吉川礎弘(大阪赤十字病院附属大手前整肢学園)
- (以上、五十音順、敬称略)

協賛企業

【機器展示協賛】

- ・未来航路株式会社
- ・株式会社オフィスサニー
- ・株式会社コーポレーションパールスター
- ・株式会社オレンジアーチ
- ・株式会社アイプロ
- ・パシフィックサプライ株式会社

学術大会の開催にあたり、多くの方々に御協力・御支援を頂きました。
ここに謹んで御礼申し上げます。

大会実行委員一同

日本発達系作業療法学会 第12回学術大会 プログラム・抄録集

主催：日本発達系作業療法学会

大会長：黒澤 淳二

事務局：関西医科大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 松島 佳苗
〒573-1136 大阪府枚方市宇山東町18-89
E-mail：hattatukei.3910@gmail.com

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>